

## 前回（第7回）会議での主な御意見等（指標・目標値に関するもの）

### 1 検討の趣旨（前回（第7回）会議資料 再掲）

- ・ 来年度に、次期「京都観光振興計画」（仮称）（以下「次期計画」という。）策定のための議論を控えている。
- ・ あるべき指標・目標値の詳細は、次期計画の「目指す姿」や「施策の軽重」等の議論と連動する形で検討していくが、今年度は、来年度の議論に向けて、あらかじめ協議を行うもの。

### 2 前回会議での主な御意見

#### (1) 総論

- グローバル基準を満たした指標とする必要があるため、JSTS-D（GSTC-D）やMICEにおけるGDS-Index等の国際基準を意識した設計とすべき。仮に指標に位置付けないものが出てきたとしても、継続把握に努め、聞かれたら答えられるようにしておくことが必要。
- 個別で見るとそれぞれ重要な指標であるが、指標の数が多い印象。
- 現計画では、コロナ禍において全体を俯瞰するために網羅的な指標を設定した経過がある。今後は、改めて何を大切にするのかをより明確にすべき。指標としてしっかり見ていくべき「政策的指標」と、参考的に見ていく「個別指標」を分けることが必要。ここまでの指標数は不要と思うが、各指標の要否は個々に議論していく必要がある。
- 指標・目標値の数を絞っても良いのでは。少し読みづらいと感じる。ぱっと目について数値が分かるようにすることも有効。

#### (2) 各論

##### 柱1 市民生活と観光の調和・豊かさの向上

- 市民意識調査について、迷惑に感じた割合だけではなく、「観光客と対話し触れ合う機会があったか」などポジティブな側面も引き続き調査すべき。
- 市民の主観に関する指標が多い印象。市バスの積み残しの発生回数や乗車待ちの時間等を定点観測し、客観的にモニタリングしても良いのではないか。
- 「何割の市民が観光客を歓迎しているのか」「障害になっているものが何なのか」といった観点を示すことができる指標があると良い。
- 観光客・地域住民・観光関連事業者それぞれの意識を重要視する目標値を設定が必要。指標として地域を思いやる行動の詳細が具体的に見えてくるとより良い。
- 「迷惑を感じた市民の割合」だけでなく、その迷惑が何らかの形で解消されているか、解決策の周知・認知状況まで把握できるとより良い。

- 京都観光モラルに取り組む事業者数も大切だが、それ以上に、観光客にいかに関わっているかが重要。
- (現在も観光客数は指標としていないが) 観光客数はあえて重点指標としないといった議論もある。むしろ、年間、曜日、時間帯別のバランスなどを見ていくことが重要である。
- 全ての観光客を分散化させることはできない。エリア毎にターゲットを明確にし、ターゲットに合わせた指標を設定してはどうか。
- 市民の観光に対する理解度が客観的に分かると面白い。仮に理解度が低いようであれば、周知不足との判断もできる。

## **柱2** 京都の「光」の磨き上げ・観光の質の向上

- 単に物見遊山的な観光ではなく、京都の文化財や伝統工芸に触れることを重視するのであれば、それを日本人・外国人毎にモニタリングすべき。
- リピート率は、現状、最大「10回以上」という聞き方をしているが、「15回」「20回」と更に深掘りし調査しても良いのでは。
- 観光客の満足度については、日本人・外国人共に9割超と高止まりの印象。例えばリピーターの満足度に絞る等も一案。
- 重点指標が、観光消費額単価やリピーター率、宿泊率、平均宿泊日数だけであるが、これだけで観光の質を評価するのは違和感がある。

## **柱3** 担い手の活躍

- 経営実態、観光サービスの供給状況、雇用状況を評価する指標を設けた方が、政策に反映しやすいのではないかと(国「観光地域経済調査」参照)。
- 現計画策定後のトレンドとして、生産性向上や人材不足解消につながる観光DXの観点も必要。

## **柱4** 危機に対応でき、安心・安全で持続可能な観光の推進

- 現在、BCPの策定状況が指標となっているが、BCPは事業者によって完成度が異なる。  
例えば危機発生時の初動から平時に戻るまでの対応を区分けした危機管理体制の状況を調査したり、危機管理マニュアルの有無等についてチェック项目的に調査すれば、当該調査を通して危機管理意識を高めることにもつながるのでは。
- 市全体のゼロカーボン関連の指標と連動したのになると良い。

## **柱5** MICEの振興

- ユニークベニユーの選択状況や、サステナビリティへの配慮の状況が重要項目である。
- 調査手法等に限界があるかもしれないが、ミーティングやイベントの開催場所や開催状況に関する標本調査を定点実施し、どこにニーズがあるのかを時系列で観測するなど、現在の指標より更にブレイクダウンした指標を設けてはどうか。
- MICEが市民生活の豊かさに貢献していることを評価するために、国際会議における市民向けのイベントの開催状況や参加者数を把握してはどうか。